

記録：第 342 回海外邦人安全対策連絡協議会

1 月 11 日、「第 342 回海外邦人安全対策連絡協議会」を開催したところ、概要につき以下のとおり。主な議題は、新規感染・ワクチン接種状況、出勤率状況、家族帯同状況、3 回目のブースター接種の見通しなど。

1. 冒頭

(大使館総括公使)

現在のところ、新型コロナウイルス感染状況については、従前よりも若干落ち着いた状況だが、オミクロン株という不安定要因もあり、また年末年始の国内移動があった直後という時期でもあるため、今後年末年始の移動の影響がどれくらい出てくるのか、あるいは出てこないのかという点を当館としては注視しているところ。今後も状況を注視しつつ迅速に皆様に情報発信したい。

2. 治安ならびに邦人に関わる最近の事件・事故報告

(大使館政務部書記官)

テロ情勢について説明する。昨年 1 年間のインドネシアのテロによる逮捕者数について、年末に国家警察のテロ対策部が 370 名と公表。他方、テロ対策庁は 364 名と若干異なる数字を公表。いずれにしても 3 百名台後半の人数が昨年逮捕されている。テロ対策庁の数字に従えば、364 名中の半分強である 178 名がアルカイダ系のジェマー・イスラミア (JI) の関係者。次いで半分弱の 154 名が ISIL 系のジャマー・アンシャルド・ダウラー (JAD) の関係者とされている。この 2 団体でほぼ全体を占める状況。このようなインドネシア当局の取り組みもあり、年末年始を含め最近はインドネシアにおけるテロは発生していないが、ここ数年を見ると警察関係施設や宗教関係施設がテロの標的となる傾向がある。引き続きこれら施設には近づかないようにするなど、最低限の注意をしていただきたい。

(大使館警備班書記官)

昨年から何度もお話ししている基本的な防犯対策について繰り返しお願いさせていただく。昨年から家族帯同も再開されて、家族を当地にお呼びした方も多いかと思うが、家族の方には当地の生活に不慣れな方も多いと思うので、改めて家族の方にも平時の防犯対策の注意喚起をお願いしたい。特にジャカルタ近郊で邦人の被害が多いのはスリやひったくり。ジャカルタだと、スディルマン通り沿いの歩道を歩いている際にひったくりに遭うケースや、モールで食事中や買い物中などにカバンやポケットの中から財布を抜き取られるスリ被害のケースなど、この 2 点が主だったもの。駐在員だけでなく家族の方の平時の行動時にも十分注意するよう再度の注意関係をお願いしたい。

また一点参考までに紹介すると、被害に遭われた際に当館へ相談いただくことがよくあるかと思うが、中には当館へ報告いただけなかったり、そもそも警察にも通報しないという方も多い。最近警察から当館へ連絡があったのが、ひったくりの被害を受けた邦人の方の携帯電話を警察の方で押収したので、本人へ返却したいとの相談があった。インドネシアなので仕方がないと泣き寝入りする方もいるが、警察の方へ被害届等を出しておくと思わぬタイミングで被害品が返ってくるということがこの国でもあり得るということ参考まで紹介する。

3. 新型コロナウイルスをめぐる状況

(大使館医務官)

インドネシアのコロナの状況は、政府が発表している数値からすると落ち着いているが、やはり今年に入ってからじわじわと増えだしてきているように見える。未確認情報ではあるが、医療アシスタント会社に、邦人が感染したという例も報告されたという情報があり、コロナ感染は増えているものと考えた方が良い。これがオミクロン株なのかどうかは、インドネシアの場合なかなか分からないが、周りの状況から考えて、オミクロン株は既にインドネシア国内に普通にあると思った方が良い。オミクロン株についてはまだ分かっていないことも多い。感染性が高いというのはほぼ確実。感染の形態がこれまでのように接触や飛沫感染だけでなく、空気感染に近いようなエアロゾル感染というものがあり、これだと閉鎖した空間ではかなりの確率で感染を起こしてしまう可能性が指摘されている。感染対策としてはこれまでと基本的に一緒だが、今まで以上に会食に注意する、あるいは、閉鎖空間に他人と一緒にいる時間を短くするといった対応が必要。

オミクロン株には限らないが、ワクチンについては有効なことが判明してきており、問題は3回目の接種をどうするかという点。インドネシア国内では3回目のワクチンを有償で打つという方法が近々出てきそうではあるがその実態は掴めていない。この辺りは情報が入り次第共有したい。薬については、去年まで使用されていた薬が、あまり効果がないことが分かってきた。一つは、イベルメクチン。これは結果としてあまり効果がないだろうと言われている。新薬としてモルヌピラビルという薬が最近、インドネシア国内で緊急使用許可が出たということがあり、そのような情報があるものの、インドネシアの場合、薬の使用が許可されても、入手をどのようにするかというと難しく、実際にこれが感染した場合にすぐ使えるのかという問題がある。この薬は基本的に発症してから5日以内と言われており、インフルエンザのタミフルによく似た薬で、早いタイミングで飲めば重症化をかなりの確率で防ぐことができる。この他にもいくつかインドネシア国内で使える薬が出てきているようなので、その辺りはこれから調査して皆様に適切な情報を提供できるよう努めていきたい。

4. 各社・機関からの状況報告

(企業からの報告)

駐在員については約 110 名いるが、基本的にインドネシアに戻ってきている。一時帰国している者も若干いるが、当地に戻ってくる予定。帯同家族については現在約 50 名が当地に来ており、今後も年始から 3 月、4 月にかけて学校の関係がある程度整理できた段階で当地に来る予定。出張者についても現在受入れを行っておりコンスタントに数名から 10 名程度来ている状況。関係者も含め新規感染者は数名いるが日本人は今のところなし。

(企業からの報告)

前回の海安協から新規感染者はなし。ワクチン接種については駐在員及びその家族含め全員が 2 回の接種を完了。一部駐在員の異動があり、昨晚 1 名当地へ入国し隔離を開始している状況。一点質問となるが、駐在員の帯同家族の中でこれから 12 歳を迎える子女がいる。このような海外在住のワクチン未接種の子女に対するワクチン接種について、今後の方向性、または既に方針が出ているようであれば、教えていただくとありがたい。

(企業からの報告)

約 2 ヶ月ぶりに先週、インドネシア人社員 1 名の新規感染者が報告された。現在、その者からの感染が広まっているということもなく、本人も症状はほぼないとのこと。駐在員及び帯同家族については全員当地へ帰還済みであり、当地へ赴任する予定の者も順次着任が進んでいる。出張者も 12 月に隔離期間が 10 日間になったときに減ったが、現在 7 日間になったことから出張者が当地に来る機会が見え始めている。

(企業からの報告)

日本人及びインドネシア人とも新規感染者はなし。引き続きガイドラインに基づき感染防止対策を徹底、ワクチン接種を推進し、日本人は全員完了、ナショナルスタッフもほぼ完了している。

(企業からの報告)

前回の海安協から新規感染者はなし。ワクチン接種もホームスタッフ、ナショナルスタッフともに全員が接種を完了。社員の一時帰国については新規の動きはなし。外国からの出張者の受入れについても計画をしていない。特に前回から大きな動き等もなし。

(企業からの報告)

前回の海安協から新規感染者はなし。ワクチン接種もホームスタッフ、ナショナルスタッフともに全員が 2 回の接種を完了。空港での状況報告として、ジャカルタに到

着した後の PCR 検査はどうか、との質問をよく受けることから、現段階の情報を共有する。ジャカルタ当局から通達されている内容は、到着後に PCR 検査を行って、その検査結果が出るまで空港で待つことが必要、という通達そのものに変更はなし。ただ、最近やはり空港での PCR 検査で陽性反応が出るケースが増えてきているせいかと推測されるが、日本人含む外国人については、PCR 検査の検体を空港で採取した後、その後ホテルに移動することがほぼ認められ、ホテルで結果を待つことが多い。これはあくまでも運用でこのような対応になっているようで、これがいつまで続くのかは言及できない。

(企業からの報告)

駐在員に関しては全員当地へ帰還済み。帯同家族についても 2 家族が帰還しており状況は変わらず。感染状況については前回の海安協から日本人及びローカルスタッフともに新規感染者はなし。引き続きしっかりモニタリングしていく。

東部工業団地は引き続きまだ PPKM のレベル 2 を継続。最近の事案だと、バイク盗難事案を数件聞いている。各企業においては、不必要なゲートの開閉をしないように、従業員の出入りが終わり次第すぐにゲートを閉めるなどの対策を行っていただきたい。また、渋滞や道路の補修等の工事が多く行われているので、交通には注意いただきたい。

(企業からの報告)

日本人及びインドネシア人ともに新規感染者はなし。駐在員及び帯同家族ともにワクチン接種を 2 回完了。最近、スタッフ及び警備員も含めて熱はないけど体調が悪いという事例が増えてきているのが実態。もう一度社内の感染拡大を防ぐためのルールを改めて確認しているという状況。

(企業からの報告)

現地従業員 1 名が感染しているが、その他従業員は日本人も含め感染していない。またインドネシア政府から、従業員向けの 3 回目のブースター接種の準備を進めるように言われており、2 回目の接種から 6 ヶ月経過した 18 歳以上の者を対象に、ブースター接種の準備を進めているところ。もし差し支えなければ、3 回目の空港接種の体制等について動きがあれば共有いただきたい。

(企業からの報告)

現在感染者は駐在員・ナショナルスタッフ・家族ともになし。現在駐在員 50 名、帯同家族が 24 名。ワクチンの接種状況について、駐在員のほとんどが中国製ワクチンを当地で接種したが、その半分はその後一時帰国した際、空港で既に 3 回目、4 回目の接種を受けているというのが現状。一方で、残りの半分が去年の 6 月に中国製のワクチンを打ってそのまま一時帰国せずにそれっきりという状況。そのような者に対してこれからブースター接種を実施するというので、既に会社の方では製薬会社と調

整は始めていて、今月から3回目のブースター接種を駐在員、帯同家族及びナショナルスタッフにも実施する。ただ、逆算すると、去年の8月頃にデルタ株がひどかった時に一時帰国して空港で接種を受けた者が一定数おり、それらの者の6ヶ月経過が2月、3月頃になるが、また日本に帰国して接種を受けるという訳にもいかないのが、当地で打つことになると思うが、例えば日本大使館の方で、以前アストラゼネカを調整いただいたように、邦人向けの接種の案内をしていただけると非常にありがたい。

(企業からの報告)

日本人及びローカルスタッフとも新規感染者はなし。一時帰国していた者も全員当地に戻ってきており、一部はまだホテル隔離中。ワクチン接種についてローカルスタッフも含めほとんどの社員が完了。現在、3回目の接種に向けて希望者を募るなど準備を進めている。これに関して、今朝の情報でもあったが新しく5種類のワクチンが認可を受け、ファイザーやアストラゼネカも含まれているとのこと。これを調達することが可能か並行して調べているが、何か情報があれば共有いただきたい。

(企業からの報告)

新規感染者はなし。事務所は50%のシフト勤務、現場は通常稼働。先月以降2名の新規赴任者の入国があった。一時帰国中の者1名はコロナと関係なく通常の一時帰国。駐在員の関心は3回目の接種が空港や当地で可能かという点に移ってきているが、特に弊社として何かアクションを起こしてはいない。

(企業からの報告)

新規感染者はなし。前回から特に変化はない。

(企業からの報告)

製造・販売ともに新規感染者はなし。日本人についても年末年始に異動のタイミングであったが順次着任が出来ている。

(企業からの報告)

ワクチン接種3回目を目先の課題として抱えている。その他報告事項はなし。

(企業からの報告)

新規感染者はなし。帯同家族についても既に当地に到着している者と準備中の者がいる。海外からの出張者についてはまだ受け入れていないという状況。新規赴任者については予定どおり準備を進めている。

(企業からの報告)

特に変更はなく、新規感染者はなし。予定している赴任者の準備も進んでおり、出張者も受け入れている状況。

(企業からの報告)

本日久しぶりにグループ内で1名新規感染者が発生。現時点でその者から症状の報告はなし。現在、弊社の派遣員数は86名。家族については4世帯おり、春休みまでに

追加で 10 世帯を予定しているがオミクロン株の状況次第。出張者は数名来ており、1 月、2 月の間に 10 名弱が来るという状況。

(企業からの報告)

前回の海安協から新規感染者はなし。新規赴任者については、この 1 ヶ月で 3 名の赴任者が着任完了。

(企業からの報告)

前回の海安協から新規感染者はなし。今後については、昨年末に着任した新規赴任者の家族が入国予定。

(団体からの報告)

現在のところ事務局に動きはなし。ワクチン接種は全員 2 回完了しており、新規感染者もなし。一方、日本人会としては、日本人の方の帰還が進んでいるものと思われる。昨年 9 月、10 月辺りでは会員数 800 名と底をついたが、現在そこから 300 名程度増えている状況。また、ソフトボールが再開されたこともあり、図書館の 1 日辺りの来館数も以前は 1 桁だったのが今では 30 名程度の日がありお子さんの姿も見えるので、家族が戻ってきているのを感じる。今後は、ワクチン接種を含めて、今回のオミクロン株の波を混乱なく皆様と乗り越えられるよう引き続き情報共有したい。

(JICA)

新規感染者はなし。事務所は 50% を上限に出勤体制としている。日本からの出張者、短期渡航者の受入れも開始。国内出張は所長決裁の上実施。

(JETRO)

新規感染者はなし。ワクチン接種もほぼ全員 2 回目を完了。今後、3 回目接種をどうするかという点が課題になると考えている。新規赴任者も順次入国している状況。

(国際交流基金)

新規感染者はなし。出勤率は 50%。新規赴任者は年末年始に 3 名いたが無事着任。その他、日本語パートナーズ（日本語教師の助手）を各地に派遣しており、今回はジャカルタ近郊のみとなっているが、30 名程度が 3 月まで活動を続ける予定。

(チカラン日本人学校)

教職員及び児童生徒ともに新規感染者はなし。学校は通常の登校で運用。児童生徒数は 1 月（3 学期から）に 17 名の編入を予定しており、合計で 61 名となる予定。4 月にもかなり入学希望者が来ているが、これもコロナ次第のため心配している状況。

(ジャカルタ日本人学校)

12 月に幼稚部の教員 1 名が新たに着任して 12 月末より勤務開始。日本人 67 名、児童生徒及び教職員含め新規感染者はなし。CJS からも報告があったとおり、通常は新規編入がない 3 学期に 50 名の児童生徒が入ってくるということで、全体数も 300 名を超えてきた。それでもまだ、コロナ前の 3 分の 1 程度ではある。

5. 質疑応答

(大使館領事部長)

質問いただいた12歳未満の子女への当地におけるワクチン接種の見通しや状況について、特に現時点でインドネシア政府から外国人の子女に対する特別な計らいがあるという情報には接していない。岡本医務官から補足することはあるか。

(大使館医務官)

現在、確定的な情報はない。医学的な話をすると、12歳未満の子女についても、やはり流行が顕著になると、ワクチンを接種しておいた方が良いという考え方をしている欧米の国がいくつかある。そういう意味ではインドネシアでも余裕ができれば接種する方向になっていくものと思われるし、実際に接種するという方向に向いてきていると思うが、その際に現時点においてインドネシアで接種できるのは中国製のワクチンだけなので、それにどこまでの意味があるのかは判断が難しい。したがって、現時点で確定的なことを申し上げるのは難しい。

(企業からの質問)

今月をもって羽田・成田での空港接種も終わると理解している。帯同家族として当地に赴任している子女は、12歳に到達していればそれまでの中で接種できていたと思うが、これから12歳に年齢が達してくる子女に対して、何か日本国内でも現時点で対応方針はないという理解でよいか。

(大使館領事部長)

昨年8月から海外在住邦人の一時帰国時のワクチン接種(羽田・成田空港)が行われてきて、これは当初1月上旬をもって終了という案内であったが、年末年始の駆け込み需要もあって1月24日までということになっている。今後の状況について何も発表されていない状況ではあるが、引き続き当館始め多くの在外公館からも本邦へ希望の声は報告しているので、今後の動きをもう少し見てみる必要がある。

(大使館総括公使)

当地で12歳になる子女については、当館で昨年9月からタンジュンプリオクの港湾検疫でワクチン接種のプログラムを続けているので、こちらを利用するということが考えられる。12歳以上17歳以下の場合は検疫に問い合わせどのような種類のワクチンを接種できるか確認する必要がある。詳しくは当館のホームページでタンジュンプリオクの港湾検疫の情報を掲載しているので、これを参照いただきたい。

3回目のブースター接種に関する日本の空港での接種の可能性、また、現在行われている1回目及び2回目の空港接種について、現時点でお伝えできる情報はない状況。お知らせできる時期が来たら迅速に皆様には情報共有したい。

(大使館領事部長)

続いて、質問いただいたインドネシアのワクチンの調達状況、これはブースター接種を念頭にしたものと思われるが、5種類のワクチンが対象になるということは当館も認識しているところだが、これが今後どのように使われているかというところは現時点で情報がない。これも具体的にお伝えできる状況になれば情報共有したい。

次回海安協は 2022 年 2 月 8 日（火）に開催予定。